自然歩道の整備進む
安全で歩きやすい森へ

かんほきょうの森だより 8

今回は、前号でご紹介した炭焼きと同日（7月29日）に行った自然歩道の整備について、その活動の様子を報告します。

「かんほきょうの森」では、今後の森林整備や調査、イベントが実施できるよう、昨年度に引き続き、倒木などにより通行が困難となっている自然歩道の整備を進めています。通行の支障となっている倒木や、倒れる危険のある枯死木については、賀茂地方森林組合の協力により、作業に先立って伐採しました。

当日は、環保協役職員9人で自然歩道の掘削・整地作業を行いました。作業箇所の中には傾斜が急な場所もあるため、まず落葉や小枝を熊手で取り除いて地面の状態を確認しました。その後、山ぐわを使って地面を掘削し、歩きやすい幅や勾配になるように整備しました。また、露出した木の根が歩行の妨げとなる箇所については、安全性を確保するためノコギリで根を切断しました。整地後は土を踏み固めて歩道面を安定させるとともに、雨によって土が流れ出ないよう、伐採した木の幹を歩道の端に配置し、木の枝を杭として打ち込んで固定しました。こうした作業により、自然歩道は以前よりも安全で歩きやすい状態となりました。

作業に参加した職員からは、「少しの整備でも歩きやすさが大きく変わることに驚いた」「普段何気なく歩いている山道も、多くの人の手によって整備されていることを実感した」といった声が聞かれました。

今後も安心して「かんほきょうの森」を訪れることができるよう、より安全で歩きやすい自然歩道を目指して整備を進めます。

（地域支援課　八島 聡美）


土砂流出を防ぐために木を固定する作業


歩きやすい勾配にするための掘削作業

ひろしま気候変動適応センター
㉗気候変動とレモン栽培

全国トップ生産量「広島レモン」
気象の極端化が栽培のリスク

温暖な気候に恵まれた広島県の島しょ部では、カンキツ栽培が盛んに行われています。中でもレモンは、全国トップの栽培面積及び生産量を誇り、「瀬戸内広島レモン」として今ではすっかりおなじみとなっています。レモンを栽培できる地域は、地球温暖化に伴う気温上昇により、島しょ部だけでなく沿岸部や内陸部へとさらに拡大する可能性があります。

一方で、忘れてはならないのはレモンが寒さに非常に弱い果樹であるということです。年に一度程度でも、限界を超える寒さに遭遇すると、出荷できる果実量が減少するだけでなく、栽培している樹が弱って、産地としての継続が困難になる恐れがあります。

そのため、県内の関係者が協力し、寒さによる被害リスクを低減しつつ栽培地域の拡大を目指して活動しています。さらに今後は、気候変動による気象の極端化により、強烈な寒さや記録的な暑さ、短時間強雨と連続無降水日数の増加などが懸念されていることから、これらがもたらす多くのリスクを想定した取り組みが必要とされます。

露地栽培のレモンでは、5月頃に開花し、10～11月頃に緑色の状態で出荷が始まり、年末から5月頃まで出荷されます。広島県では、露地・ハウス栽培、貯蔵を組み合わせることで「瀬戸内広島レモン」を消費者の皆さまのお手元に一年を通してお届けできるように努めています。未成熟な緑色のレモンと成熟した黄色いレモンでは風味や用途が異なり、それぞれに適した料理や加工方法があります。

ぜひ旬の「瀬戸内広島レモン」を存分にお楽しみください。

（気候変動適応センター）

「瀬戸内 広島レモン」レシピ40選

広島県産レモンの出荷時期

種類＼月	1	2	3	4	5（開花期）	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培	■	■	■	■	■					■	■	■
ハウス栽培							■	■	■			
個包装（貯蔵）						■	■	■				

出荷される果実の色：■ 黄色　■ 緑色

（出典：広島県 HP を一部改変）

KDDIが森づくりに寄付
環保協 環境整備の資材などに活用

KDDI 株式会社中国四国総支社の倉田総支社長（写真左）より当協会兼森理事長（同右）へ目録が贈呈された

当協会は、KDDI株式会社中国四国総支社より、『かんほきょうの森』づくりなどに対して20万円のご寄付をいただきました。

KDDIグループでは、2008年度から地域の環境保全活動の推進を目的とした社会貢献活動制度「+α（プラスアルファ）プロジェクト」を推進されています。この制度は、社員が参加した環境保全活動やボランティア活動、寄付などの社会貢献活動をポイント化し、積み立てたポイントを会社が金額に換算して、社員が推薦する慈善団体などへ寄付する取り組みです。

9月7日、広島県公衆衛生会館（広島市中区）において、KDDI株式会社中国四国総支社の倉田聡之総支社長と当協会の兼森裕理事長などが出席し、寄付金の目録贈呈式を執り行いました。目録贈呈式で倉田聡之総支社長は「森づくりをはじめ、環境保全活動の発展につながればうれしい」と伝え、兼森裕理事長は「森づくりの作業に必要なノコギリやヘルメットの購入、間伐材や除伐材の活用研究などに使わせていただきたい」と述べました。

3年目を迎えた『かんほきょうの森』づくりですが、間伐や除伐、歩道の整備などで活動しやすい環境が整いつつあります。今年度からは、水源涵養やアカマツ再生の研究、広葉樹材を使った炭焼きなど、森の資源を活かしたさまざまな活動もはじめました。この度のご寄付は、私たち役職員の励みになり、今後の活動で有効に使わせていただきたいと思います。

（地域活動支援センター　山下 祐治）